

2021 年度 学校関係者評価報告書

福島医療専門学校

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「2020 年度学校自己評価結果」に基づいて学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告致します。

1. 開催日時・場所

日時：2021 年 11 月 7 日（日） 13 時 00 分～14 時 00 分

場所：福島医療専門学校 本部・柔整科校舎会議室および ZOOM によるリモート会議

2. 出席委員（敬称略）

《企業等委員》

三瓶 直之 安積野さん（いのさん）整骨院院長

山本 忠臣 福島医療専門学校康友会 会長

《学内出席者》

飯島 正治 校長

木野 達司 副校長

齊藤 慎吾 教務部長

鈴木 英明 教務副部長

柴田 佐智子 教務副部長

伊東 秀高 柔整科学科長

千木良 美歩 鍼灸科学科長

今泉 正子 歯科衛生士科学科長

鬼越 勇人 事務局長

小池 一幸 事務局次長

3. 委員会の概要

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 2020 年度（令和 2 年度）学校自己評価報告
- (4) 質疑応答・意見交換
- (5) 学校関係者評価委員による評価
- (6) 評価の講評
- (7) その他
- (8) 閉会

4. 教育の目的・目標

《建学の目的》

「福寿高尚の教育」

21世紀を迎える、生きがいのある「福寿」に満ちた長寿社会の構築を目指し、「医は仁術である」という崇高な精神のもとに「高尚」の教育を推進し、医療社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。

《教育目標》

- ①深い教養と諸能力を持つ人間を育てる
- ②医道に奉仕する心を持つ人間を育てる
- ③自然を敬い、生命の尊厳を重んじる人間を育てる

《教育方針》

①深い教養と諸能力を追及する「創造教育」

グローバルな時代の中で、高い次元から「より深い哲学的教養を養い、文化を創造する能力」を育てる。

②倫理観と向き合い、人間愛にあふれた「医術教育」

医道を極めるにふさわしい臨床的技術を追求する過程において「思いやりと優しさに裏打ちされた奉仕の心」を育てる。

③美しいものに感動し、自然と人間のあり方を探求する「環境教育」

宇宙では、人間をはじめすべてのものは固有の生命を持ち、どれが中心ということはない。「生きとし生けるものは総て生かされている」という自然観を敬う心情を育てる。

《2020年度重点教育目標》

体験・体感させる教育の充実と拡大

教育IT化の推進

5. 項目ごとの評価・課題・意見

※自己評価は4(適切)を最も高く、1(不適切)を最も低いものとする。

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0
2) 医療専門学校としての医療人教育がなされているか	3.9
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.8
4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されている	3.9
5) 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられてい	3.6

るか

＜課題と改善方策および委員会の意見＞

Onedrive を中心にオンライン教育資料の提供化をおこなっており、各自の自主性を尊重した教育環境を整備している。

Teams アプリを使用して学生・教職員間の情報共有と活用、利用方法の開発、教員を含めた IT 教育充実が今後も課題。

柔整・鍼灸・歯科衛生とも各学会と協力し業界との交流を積極的に行っている。ただ限られた人材と時間で対応せざるを得ない。新たな人材の確保と既存の人材の活用・充実を図りたい。

学校説明会だけでなく、学校主催の各種イベントを開催し、東洋医学や口腔衛生の知識の普及を積極的に行っているが、時間的・人材的な制限はある。新型コロナの影響が大きく、次年度どのようにこの影響を少なくしていくかが課題。

日本語学科や保育園で、新たな人材を確保しているが、なかなか人材教育の時間の確保が難しい。

(2) 学校運営

評価項目	評価
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.9
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。事業計画の共通理解がなされているか	4.0
3) 運営組織や意思決定機能は、規則や校務分掌等において明確化されているか	4.0
4) 校務分掌における役割と職責が明確化され、有効に機能しているか	3.9
5) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	3.9
6) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.8
7) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.9
8) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.9
9) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0
10) 組織内におけるパワーハラスメントやセクシャルハラスメントへの対策が図られているか	3.7
11) 学内で新型コロナウイルス感染症対策が図られているか	4.0

＜課題と改善方策および委員会の意見＞

柔整科、鍼灸科、歯科衛生士科と全体として適正に運営されている。

県の助成金等を活用して、学内の WiFi 環境等の整備を進めることができた。ICT を充実させることが教員の教育にもプラスに働いている。

特に非常勤講師の採用が時期の問題もあり、臨機応変に対応せざるを得ないことがある。年度末の急な異動等には対応が難しい。

各科の委員によるパワーハラスメントについての委員会を設けており、全教職員に対し第三者機関によるストレスチェックを毎年実施している。また逐次、研修会・教職員会議等を通じて啓蒙を行っている。

感染症対策については、各校舎入館時に手指消毒とカメラによる体温測定を行い、全教室にはプラズマクラスター空気清浄機を設置し 24 時間換気と正常化を行っている。授業中も 40 分ごとに換気をするようにチャイムで促している。また本校では毎日教職員と学生的健康状況報告を徹底しており、異常がある場合は登校前に担当から連絡を入れ適切な対処を行っている。

(3) 教育活動

評価項目	評価
1) 教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか	4.0

2) 一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか	3.7
3) 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
4) 医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.9
6) 関連分野における実践的な職業教育（产学研連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか。	4.0
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	4.0
8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0
10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	3.5
11) 教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.8
12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか	3.7
13) 関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3.7
14) 教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.5

＜課題と改善方策および委員会の意見＞

ICT教育が進んだ一年であった。学生にも馴染み活用できてきた。コロナ禍でも授業ができている。

国家試験対策が3年次に集中していた。1・2年次からの基礎学力向上や授業の復習に時間をあてて、学習の機会を増やしたい。

鍼灸科は教員数が不足している。拡充を図り、適材適所の体制を行いつつ学生の苦手科目の担当教員の分散化を図りたい。

一部リモート授業の理解度が低かったのではないか。より学生が理解できるような内容の構築が必要である。

(4) 学修成果

評価項目	評価
1) 就職率の向上が図られているか	4.0
2) 国家試験合格率の向上が図られているか	3.7
3) 退学率の低減が図られているか	3.3
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.2
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.9

＜課題と改善方策および委員会の意見＞

国家試験の合格率向上にあっては1・2学年からの対応強化が必要ではないか。

退学理由の1つである学力や学習意欲の低下を防止することができていた。さらに施策を練っていきたい。

鍼灸への理解をもっと進めるうえでは、広報と連携する必要があるのではないか。

歯科衛生士科のキャリア形成にあたって、臨地実習の場で幼稚園や介護施設へ行くことができなかつた。残念である。

(5) 学生支援

評価項目	評価
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4.0
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.0
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4.0
7) 保護者と適切に連携しているか	4.0
8) 卒業生への支援体制はあるか	4.0
9) 学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
10) 高等学校や地域、業界団体との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4.0
11) 学生に対するパワーハラスメントやセクシャルハラスメントを防ぐ対策を講じているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

現状は適正である。今後も継続したい。

(6) 教育環境

評価項目	評価
1) 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.7
2) 学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
3) 防災に対する体制は整備されているか	3.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

2月に大きな地震があり校舎に被害が出た。その修繕にかなりの時間を要してしまった。予防策を講じる必要があるのではないか。

防災マニュアルの周知と実態に合わせた修正が必要ではないか。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
1) 学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4.0
3) 学納金は妥当なものとなっているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

概ね適正である。募集活動の中で教育内容や納付金についても正しく伝えられている。

(8) 財務

評価項目	評価

1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3.0
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

人件費の割合増も考慮すると、今後人件費の計画的削減が必要である。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
4) 自己評価結果を公開しているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

法に則って適正に運営している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
2) 学生のボランティア活動を推奨、支援しているか	3.8
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実習しているか	3.5
4) 地域や町内の行事や活動、奉仕作業への参加など、地域と学校との連携を図っているか	3.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

コロナ禍で実施できる機会が減少していた。この状況では厳しいものがあるのではないか。

参加できたものについては感染対策を講じてできていたのは良いことと思われる。

特定の学生のみがボランティア活動を行っている。機会均等、参加者増は課題である。

6. その他の意見

- ・コロナ禍で先々のことが予測できない中、学生のために尽力されていたことが伺える。
- ・感染対策しつつ、リモート授業導入や退学率低減、合格率の維持向上と先生方も苦労しているのではないかと推察される。その中において、結果を残していると言える。
- ・(コロナ禍の) このような中であるが、引き続き同窓会にはご協力をお願いしたい。